

- ・本調査に Ph. D. プログラムは含まれるのか？
→これに対し、研修生を受け入れることは可能であるけれども、Ph. D. プログラムは含まれていないことを説明し、納得してもらおう。
- ・2005 年から 2010 年にかけて新しい National Research Program が始まり、その中で環境は大きな柱になる。公募型のプログラムであるので、GeoEcoMar にも応募して参加してもらいたい。

(5) EU ルーマニア代表事務所

日時：7月22日(木) 9:00-9:50

場所：EU ルーマニア代表事務所

出席者：Ms. Jeni Ionita, ISPA Team Leader, EU ルーマニア代表事務所

Ms. Adriana Micu, Task Manager - Environment, EU ルーマニア代表事務所

Mr. Dumitru Dorogan, Counsellor, 水利・環境省

古川 JICA 事務所所長

協議概要：

調査団から本格調査の概要、スケジュールを説明し、EU 資金獲得の可能性を質問した。

EU ルーマニア代表事務所からの質問、コメント

- ・ ISPA プログラムは環境と交通に関する資金援助プログラムであり、環境に関しては現在のところ 3 つの課題（上下水道、廃棄物、大気汚染）に対してのみ援助が行われていることから、海岸侵食は ISPA の課題としてはふさわしくない。
- ・ Phare プログラムのなかには経済発展のための投資が含まれているので、そちらの方が海岸侵食対策にはふさわしい。
- ・ ルーマニアが EU に加盟すると、Structural Fund に応募することができる。この資金は、ISPA や Phare に比べると対象領域が広く、予算も 6～7 倍となる。本格調査が終了する 2006 年の次の年(2007年)にルーマニアは EU に加盟する予定なので、Structural Fund に応募することを薦める。
- ・ Structural Fund による援助の上限は全プロジェクト資金の 80～85% であるので、残りは他の Fund や Loan, 中央政府や地方政府の予算を利用する必要がある。
- ・ ルーマニア政府は 2007～2013 年に National Development Plan を実行する予定であるので、それを利用することも一つの手ではないか。
- ・ 早い段階でルーマニア政府の Ministry of Public Finances とコンタクトを取ることを薦める。その理由は、Ministry of Public Finances が ①国内予算において優先項目の決定に係わっている、②Community support system を持っている、③EU 加盟に向けての課題消化（下水道の整備目標の達成など）の責任を担っている、ことによる。
- ・ Black Sea Convention から資金を引き出すことは可能か？
→Mr. Dorogan からの回答：Black Sea Convention は水質に関するモニタリング等を検討するところであり、構造物建設のためには資金は付かない。
- ・ 本格調査の Phase 2 の Pilot Project の設計が終わった段階で、もう一度 EU ルーマニア代表事務所と打ち合わせを持つことを薦める。
- ・ EU からの資金獲得を容易にするために本格調査に EU のコンサルタントを含めることは得策かという調査団からの質問に対して：EU のコンサルタントを含めることは悪くない。その場合、コンサルタントは必ずしも Structural Fund を熟知している必要はなく (Structural Fund の応募はむずかしくない)ので、EU 内で似たような問題を扱った経験のあるコンサルタントが良いのではないか。

- ・ EU も含めたドナー獲得に向けては本格調査の Steering Committee や Seminar などが重要であろう。

Mr. Dorogun からのコメント

- ・ 2004～2008 年にかけての National Program of Measures において、Coastal Zone Management が強化される予定である。

(6) National Institute of Marine Research and Development (NIMRD) “Grigore Antipa”

日時：7月23日(木) 9:00-13:00

場所：National Institute of Marine Research and Development (NIMRD)

出席者：Dr. Simion Nicolaev, General Director, NIMRD

Dr. **** **, Science Director?, NIMRD

Mr. Danut I. Diaconeasa, Senior Scientist, NIMRD

Mr. Dumitru Dorogan, Counsellor, 水利・環境省

協議概要：

NIMRD より組織の概要説明があった。

- ・ 1970 年に 5 つの研究所が一緒になることによって設立された。
- ・ 職員数は 115 名であり、そのうち 54 名が研究者である。また、研究者のうち 15 名は博士、16 名は博士課程の学生である。
- ・ 海岸過程を担当している研究者は 5 名である。
- ・ 本省の技術的要求に対してはプロジェクトごとに契約を結ぶことによって応えている。本省からの予算は、NIMRD 全体の予算の 30～40% である。
- ・ 本省以外からは、Phare などの EU プログラムや NATO などから 10 年間に 1 M\$ の資金を調達した。
- ・ GeoEcoMar との違いについて：GeoEcoMar が Geology や Sedimentology あるいは沖合いの現象を対象としているのに対して、NIMRD は海岸の物理・化学現象 (Oceanography, Physical Oceanography, Chemical Oceanography, Coastal Engineering) を対象としており、海岸のモニタリングなどを行っている。
- ・ 以前、EU の Phare プログラム (課題名：National Integrated System/ Coastal Monitoring ; 期間：2 年) を使って、海岸の物理・化学現象観測用の計測器を整備した。
- ・ 波浪観測に関して：1980 年代に Mangalia の沖合いにブイの設置し、その動きをホテルの屋上から目視観測した (1 日 3 回)。
- ・ ルーマニア水利公社 (Romanian Water Authority) が、来年から、5 台のブイを沖に設置し、波浪のモニタリングを開始する予定である (ICZM の一環として?) ただし、Integrated Marine Monitoring System は、まだ十分に確立されていない。
- ・ 研究論文に関して：10 年前までは定期的に report を出していたけれども、その後はプロジェクトが仕事の中心となったので、プロジェクトの報告書を提出するのみで研究論文は出していない。
- ・ 海岸構造物の設計は運輸省 (Ministry of Transport) に所属している IPTAUNA (Institute of Designing for Transport, 英語の名称は不確か) が担当している。
- ・ 南部海岸は大きく 8 つの領域に分割することができる。
- ・ オランダの行った海岸管理調査に関して：関係機関、協力機関にはルーマニア水利公社 (Romanian Water Authority), IPTAUNA, ICIM (環境関係の研究所, Institute for Environmental Engineering, 英語名は不確か) が含まれている。

調査団から S/W 案, M/M 案を説明した。

コメント1 (Mr. Dorogun) : S/W 案の VII. Undertaking of the Romanian Government の項目に関しては環境・水利省の管轄外のことなので、次官が S/W 案にサインできるかどうかは確約できない。→次週にブカレストで話し合うことで合意した。

コメント2 (Dr. Nicolaev, Mr. Dorogun) : 今回の調査対象は南部海岸となっているけれども、北部海岸は Sulina の導流堤による沿岸漂砂の遮断によって大きな海岸侵食が起きている。マスコミも注目しており、今回の調査に北部海岸が含まれていないことが公になるとマスコミから非難される可能性がある。北部海岸を調査対象に含めてもらえないか？→今回の予算と調査期間では北部海岸を調査対象に含めることは無理であることを説明した。ただし、M/M にはルーマニアの黒海沿岸では南部海岸のみならず北部海岸も問題を抱えていることを示すことで合意した。

コメント3 (Mr. Dorogun) : 次官は2年半の調査期間は長いと考えている。もう少し、期間を短くすることはできないか？→今回の調査案だと2年半の調査期間が必要であることを再度伝えた。

コメント4 (Mr. Dorogun) : NIMDR は本格調査においてルーマニア側の中心的な機関になる。また、IPTAUNA を協力機関に含めることを薦める。

コメント5 (Dr. Nicolaev) : IV. Scope of the Study, Phase II. Implementation of Pilot Project(s), (2)Monitoring of water quality, tide and wave ではどのような観測を行う予定か？→現時点では観測を行うかどうかを決めていないので S/W から削除すること、しかしながら必要と判断されれば Pilot project のなかで現地観測を行うこと、を説明し、納得してもらった。

ルーマニア水利公社 (Romanian Water Authority) は C/P として適当かという調査団からの質問に対して：ルーマニア水利公社は独立行政法人 (National Administration) なので C/P より witness の方がふさわしい (Mr. Dorogun, Dr. Nicolaev)。

調査団より Questionnaire の詳細を説明し、NIMRD にデータの有無等を教えてもらった。

(7) National Institute of Marine Research and Development (NIMRD) "Grigore Antipa"

日時：7月26日(月) 9:00-10:50

場所：National Institute of Marine Research and Development (NIMRD)

出席者：Dr. Simion Nicolaev, General Director, NIMRD

Mr. Alexandru Bologna, Scientific Director, NIMRD

Mr. Danut I. Diaconeasa, Senior Scientist, NIMRD

Mr. Dumitru Dorogan, Counsellor, 水利・環境省

Mr. Alexandru Chiriac, Director, INSERT S.R.L. (水深情報等のコンサルタント、Constanta 港の岸壁整備の JICA プロジェクトに参加したらしい)

協議概要：

データや土砂等の調達費用に関する調査団からの質問に対して Mr. Chiriac が返答した。

・航空写真：撮影するためには許可が必要であり、許可には時間がかかる。民間会社で手続きを代行することが可能である。

・地図：1970年代から1980年代にかけて作成された 1/5,000~1/50,000 の地図が Local Government Register (英語名不確か、ルーマニア語でカダストロ？、政府組織、Constanata に支所あり) で購入可能なはずである。購入方法は打ち合わせに途中まで同席していた Mr. Ioan Balu (Geosurvey S.R.L., コンサルタント) が知っているはずである。

地図によっては世界基準と異なっているロシアの基準を用いており、地図ごとに基準が